

裏磐梯の絶滅危惧種 植物

1・目的

2017年版絶滅危惧種が発表されたので新しく指定されたアラゲヒョウタンボク、アオチドリを加えて、従来の植物のトキソウ、セイタカスズムシソウ、ツレサギソウを調査する。

2・結果

- 1) アラゲヒョウタンボクは裏磐梯では特定の場所（非公開）で生息をしている。
- 2) アオチドリは磐梯山では確認済みであるが磐梯高原で4株の生息を確認出来た。
今年は磐梯山のアオチドリを調査予定です。
- 3) 2年前に秋元湖付近に160株のトキソウを確認した場所が去年は4株を確認、そして今年は9株を確認出来た。盗掘なのかイノシシなのか分からない穴が確認できた。
- 4) ツレサギソウは今年も保護官事務所のご協力を得て柵をしてもらい無事開花した。
- 5) セイタカスズムシソウは去年から株数の減少が見られ、今年も同様であった。

3・考察

生育にマイナスの要因と思われるもの

- 1) 自然の遷移による
- 2) 園芸の為の採取
- 3) 湿原の開発
- 4) 森林の伐採
- 5) 気候の変化

裏磐梯では上記の原因が考えられる。

4・対策

- 1) 環境省などが保護に力を入れてもらう。そして盗掘の取り締まりをする。
- 2) 民間の自然ガイドなどを監視員に委嘱し、巡視の協力をしてもらう。
- 3) 当該地点については特定の監視員等のみが把握し、一般への公表は控える。
- 4) 子供達に生物多様性の大切さを教える。

以上のような点をふまえて、早急なる保護対策が必要と思われる。

5・概要

平成30年4月23日
平成30年5月24日
平成30年6月23日
平成30年6月29日
平成30年7月17日

調査者 友坂 豊

調査種の植物の詳細を以下に示す

【 裏磐梯の絶滅危惧種 】

1 アラゲヒョウタンボク

	日付	2018年 4月 23日
	天候	曇り
	場所	裏磐梯
	分類	福島県：絶滅危惧 I B 類 環境省： -
<p>スイカズラ科、スイカズラ属 別名：オオバヒョウタンボク 分布：北海道、本州、四国 生息地：山地 花は最初白色でのちに淡黄色を帯びる</p>		
他植物	オオバタチツボスミレ、アカマツ、ヒロハツリバナ、ネジキ、ミズキ、ススキ、カツラ、ドクウツギ、オオツリバナ、ベニバナイチヤクソウ他	

2 アオチドリ

	日付	2018年 5月 24日
	天候	晴れ
	場所	裏磐梯
	分類	福島県：絶滅危惧 I A 類 環境省： -
<p>ラン科、アオチドリ属 別名：ネムロチドリ 分布：北海道、本州（北部、中部地方） 生息：やや湿った林内に生える</p>		
他植物	アカマツ、シロヤナギ、ノリウツギ、ナナカマド、ヤマブドウ、コクワ、トリアシショウマ、オオタチツボスミレ、他	

3 トキソウ群生地

	日付	2018年 6月 23日
	天候	曇り
	場所	秋元湖付近
	分類	福島県：準絶滅危惧 環境省：準絶滅危惧
<p>ラン科、トキソウ属 分布：北海道、本州、四国、九州 生息：日当りの良い湿地に生える多年草 朱鷺の羽の色に似るので名前がついた。</p>		
他植物	シロヤナギ、ミズキ、アカマツ、カキラン、ススキ、ヨシ、クサレダマ、ミツバアケビ、トリアシショウマ、サウヒヨドリ、セリ、ドクゼリ、ドクウツギ、イタヤカエデ、ヤマウルシ、ノリウツギ他	

4 ツレサギソウ

	日付	2018年 6月 29日
	天候	晴れ
	場所	裏磐梯
	分類	環境省：準絶滅危惧 環境省： -
<p>ラン科、ツレサギソウ族 分布：日本全土 生息：日当りの良い草地や林内に生える多年草 改訂版では福島県：絶滅危惧 I A 類に入る予定 花芽を持つ株は1株だが少しづつ他の株も大きくなっている。</p>		
他植物	カラマツ、ヨモギ、トリアシショウマ、ギンラン、ノリウツギ、他	

5 セイタカスズムシソウ群生地

	日付	2018年 7月17日
	天候	晴れ
	場所	五色沼付近
	分類	福島県：絶滅危惧ⅠA類
		環境省：-
<p>ラン科、クモキリソウ属 分布：北海道、本州、四国、九州 生息：山地の林内、岩上に生える多年草 毎年草刈りがされていて人間の手が入って環境が保たれている場所である</p>		
他植物	クマノミズキ、アカマツ、ススキ、ミツバアケビ、トリアシショウマ、フキ、ツルアジサイ、ヤマグワ、ヤマウルシ他	

2019年の予定

- 1) トキソウ群生地の推移を見守る。
- 2) ツレサギソウの保護
- 3) セイタカスズムシソウが激変しているので推移を見守る
- 4) 磐梯山のアオチドリを調査する